

テクノエイド (中級)研修会

優秀賞

ベッドコントローラーを使用した離床

富士見高原医療福祉センター

老人保健施設 みづうみ

杉山 一江

施設概要

- 平成24年4月開所
- 入所定員 : 2階 40床
3階 39床 ※各2ユニット 全室個室
- 自職場 : 2階 リハビリ強化型ユニット
- ユニット職員 : 介護福祉士 9名 看護師 1名

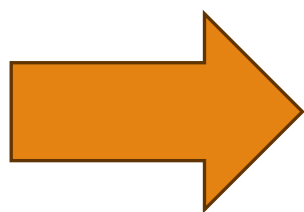
事例概要と課題

ベッドからの起き上がり、車いす移乗は全介助だが、つかまり立ちは可能。

- 職員が体に触れることに抵抗がある。
- 筋緊張による体の突っ張りにより、起き上がり時の介助量が大きい。
- 車椅子移乗の際、手すりなど掴んで離さない状況があり、バランスを崩すなど危険がある。
- 移動の際、興奮・混乱状態となり、大きな声が出る。
- 移動介助には最低2名で対応。

課題に対する対策

つかまり立ちは可能であることから、ご自身の力で起き上がり、移乗の動作ができれば、抵抗が起きないのではないかと？



- ① ベッド上で**右側臥位**になってもらう。
- ② コントローラーを使用しながら**上体を起こす**。
- ③ ご自分で**端坐位**になってもらう。
- ④ ベッド横に**車椅子**を設置。
- ⑤ ご自分で**車椅子**に乗車してもらう。

対策実施後の結果

- 職員が身体に触れない事で、**介助される恐怖心や拒否がなくなり**、声掛けの指示も入りやすくなった。
- 利用者が介助されることに対し、身構えることや、全身の緊張がなくなり、**身体の突っ張りもみられず**、移乗時の痛みの訴えも聞かれなくなった。
- 利用者、介助者ともに**安心して安全な移乗ができる**ようになった。
- 職員は、コントローラーの操作と見守りのみで良いため、1人で対応可能となり、**介助量が大幅に減った**。
- 利用者のタイミングに合わせる「**待つ介護**」というケアに向き合うことができた。